

議員提出議案第32号

サンフランシスコ市との姉妹都市提携解消の撤回を求める決議案

本案を別紙のとおり提出する。

平成29年12月12日

大阪市会議長 山下昌彦様

提出者

瀬戸一正	山中智子	井上浩	江川繁
寺戸月美	尾上康雄	岩崎けんた	こはら孝志
小川陽太			

(別紙)

サンフランシスコ市との姉妹都市提携解消の撤回を求める決議

吉村市長は、サンフランシスコ市がいわゆる「慰安婦像」の寄贈を受け入れたことをもって、大阪市とサンフランシスコ市との信頼関係が損なわれたとして、1957年以来の姉妹都市提携を、この12月中にも解消する意向であることを表明した。

吉村市長は、碑文について「歴史研究者の間でも議論が分かれる慰安婦の数、旧日本軍の関与の度合い、被害の規模について、不確かで一方的な主張」だと繰り返すが、問題の本質は1993年の当時の河野内閣官房長官の談話にもあるとおり、旧日本軍の要請に基づき長期にかつ広範な地域にわたって「慰安所」が設置され、多くの場合、本人たちの意思に反して集められた数多くの「慰安婦」が存在したことであり、「慰安所」における生活は強制的な状況の下での痛ましいものであったということにある。しかも今回のサンフランシスコ市の「慰安婦像」の受け入れは、女性に対する一切の組織的な性暴力を根絶させようとの世界的な気運の高まりやその流れに沿ったものと理解すべきであって、日本や本市への批判だとする主張にはなんの根拠もない。そればかりか、むしろ吉村市長の主張は、歴史的な事実である「慰安婦」の存在すら否定するものと受け取られかねないものである。

同時に、そもそも姉妹都市提携は、様々な考えの違いを越えて、親善交流を強める意志の下に成り立つものであり、今回のような「政治的な考え方」の違いを理由に解消するなどということはおよそ考えられない。何より、60年にわたって営々と築いてきた両都市の文化交流や親善の「歴史」を一瞬にして無に帰すことにほかならない。

吉村市長は、自らの独断によってきわめて大きなマイナスの影響が発生することに鑑み、姉妹都市提携解消を撤回し、今後とも両都市の友好・親善・交流の諸事業を発展させるべきである。

以上、決議する。

平成29年12月 日

大阪市会